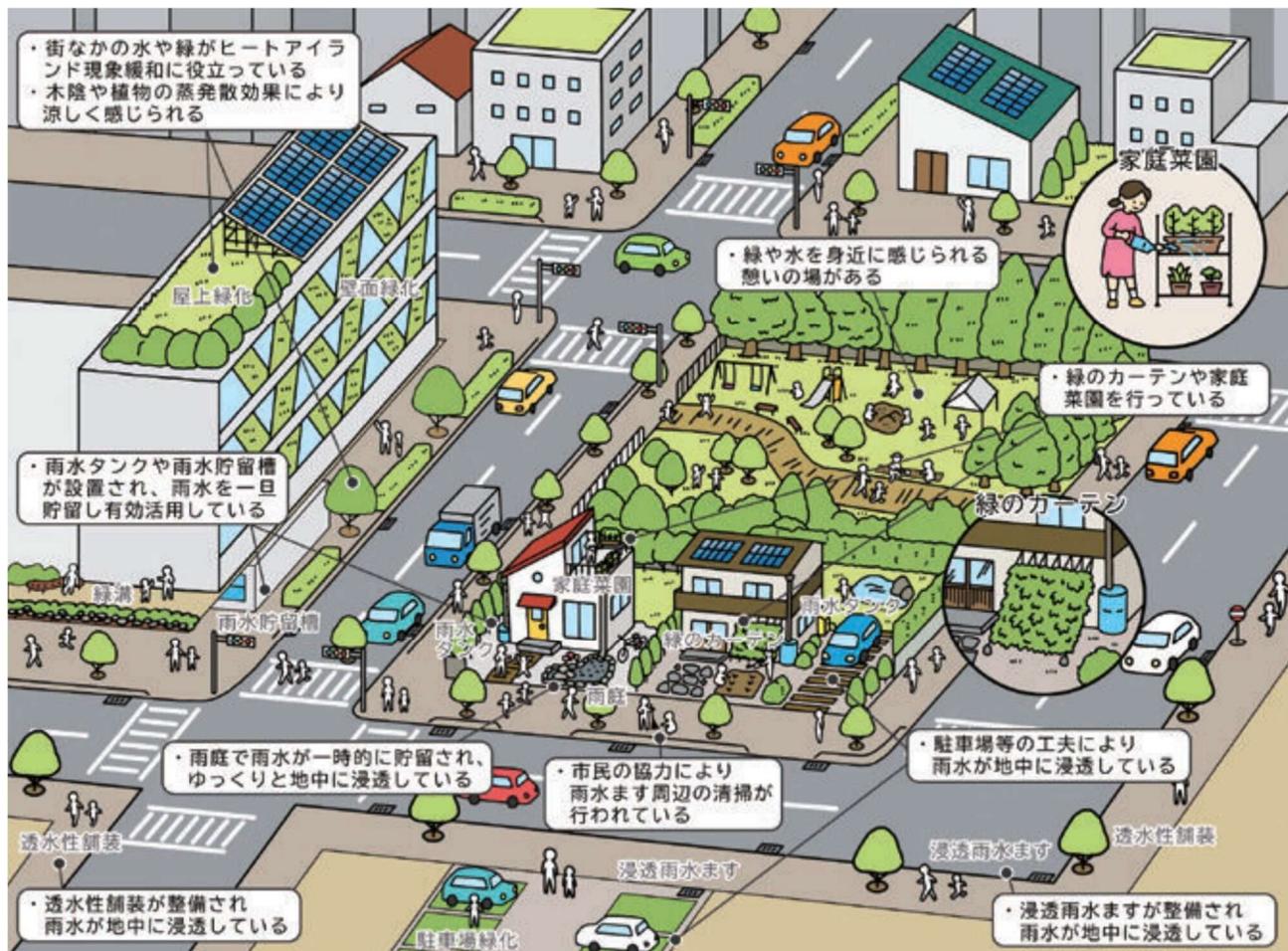


○2030年にめざす状態

行政の計画や施策など	市民・事業者など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市施設や民有地における緑化、雨水貯留浸透、雨水利用等の施策を着実に実施しています。</li> <li>・グリーンインフラ、流域マネジメント、地下水の適正な保全及び利用などを取り入れた施策により、水の循環に向けた地域づくりを一部で始めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民・事業者が、水循環について理解し、水の環を意識した行動を実践しています。</li> </ul>

住宅地（身近な生活空間）



## ●3つの環ごとの取り組みと指標・目標

2030年にめざす状態に向けて、3つの環それぞれについて、施策と、対応する指標と目標、重点的に取り組む施策を設定します。



### 環①：水循環機能の回復

- ✓ 緑の創出及び保全
- ✓ 市や民間施設等への雨水貯留浸透施設の設置の推進
- ✓ グリーンインフラを活用した雨水の貯留浸透

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
新たに確保された緑の面積(累計)	136ha(3か年)	400ha(10か年)
市施設における新築・改築等にあわせた雨水流出抑制施設の設置	実施	継続実施
水循環を理解し、水循環に配慮した暮らしをしている市民の割合	9.3%	15%
市内の雨庭の新規設置数(民間含む)	—(新設)	10か所以上

#### 重点施策：グリーンインフラを活用した雨水貯留浸透

- 雨庭(レインガーデン)の試験整備や追跡調査、情報発信等を行う



### 環②：人にも生き物にもやさしい水辺や緑があるまちづくり

- ✓ 地下水の活用や多自然川づくり等により人にも生き物にもやさしい水辺や緑があるまちづくり
- ✓ 再開発等の機会を捉えて水循環機能の活用を推進するための必要な情報提供・調整
- ✓ 地下水の保全・活用等による地域の課題解決や魅力向上

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
水辺や緑が身近に感じられると思う市民の割合	66.6%	70%
名古屋の河川の水がきれいだと思う市民の割合	34.7%	40%
市内における自然共生サイト認定数(累計)	2か所	5か所以上

#### 重点施策：水循環機能を活かした地域の魅力向上

- 個別エリアの地下水の保全・活用等を行い、地域の課題解決や魅力向上につなげる



### 環③：みんなで取り組む人づくり、場づくり

- ✓ 水循環学習プログラムの上映や講座、緑のまちづくり活動の推進等によるみんなで取り組む人づくり、学ぶ場づくり
- ✓ 水循環に関心がなかった人に興味を持ってもらうきっかけづくり
- ✓ 市民や事業者の取り組みを促進する仕掛けづくり

指標	現状(2023年度)	目標(2030年度)
水循環について理解している市民の割合	45.9%	50%
水循環に関する講座等の参加者数(累計)	950人	7,000人(7か年)
なごやSDGsグリーンパートナーズ登録認定数(累計)	2,916件	4,300件
「なごや環境大学」を支える団体数(累計)	526団体	580団体*

※名古屋市総合計画2028での2028年度における目標

#### 重点施策：水循環の自分事化を進める仕掛けづくり

- 市内の水にまつわる歴史と絡めて水循環の情報を発信するなど、水循環について知る機会をつくる
- 取組実施のインセンティブとなるよう、先進的な事例を表彰するなど、実践の環の広がりをめざす